

## 2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 東京都立田柄高等学校 ] 担当教諭名 [ 長島 春美 ] (1年1-5組 54名 )

交流相手国 [ カナダ ]

海外学校名 [ Lincoln M. Alexander Secondary School ] 担当教諭名 [ Anura Bellana ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	芸術	美術 I	30

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	「私たちの未来への希望」サブテーマ「世界の幸福と不幸」
絵に込めたメッセージ	<p>田柄側: 壁画の左半分は田柄高校が描いた部分だが、その中央にあるのは戦車の上に教会が乗っている不思議なものだ。この教会の中では結婚式が行われていて、喜びを分かち合う人々が教会の外にも、ということは戦車の上にも三々五々に集っている。戦車の上に教会が乗っている不思議な画像を探し出した生徒がいて、それを生徒達は自分達の表現の中心として選んだ。それは戦車という殺人の道具の上に人々に救いを与える教会が乗っているという矛盾を象徴している。不幸と幸福、喜びと悲しみ、その両方を見つめる中で生徒達が気づいたのは、両者が背中合わせに存在している矛盾に満ちた現実の世界だった。そこに結婚式を付け加えて、対比を際立たせているのは生徒達のアイデアだ。飢えて助けを求める子ども達を無視して歩き去る人、多くの救いを求める人々を前に利己的な欲望に耽る人、足下の貧しい人々の存在に気づきもせず大通りを闊歩する人。自然は荒廃し、工場の煙が空を汚している。逃げ出す鳥たち。</p> <p>お金持ちになりたい、好きな食べ物を食べたい・・・そんな単純な幸福観から出発した多くの生徒達も、世界の幸福と不幸の姿を涉猟するうちに、普通に食べて住んで暮らす生活すら、他者の犠牲の上に成り立っているのだという現実に突き当たった。そして自分の内面を見つめれば、人の不幸を喜びとする自分が見えたりもする。日常的な差別。いじめも他人事ではないのだろう。</p> <p>無関心が蔓延り、人々の幸福は他の人々の不幸に裏打ちされていたりもする。しかし、その現実をしっかりと見つめている私たちがいる。差別のない世界、誰もがきれいな水を飲め、飢える人のいない世界、美しい自然をみんなが楽しめる世界をつくりたい。子どもたちが小動物たちと共に戯れる森、美しい海にそれを象徴させた。</p>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>「未来への希望は何か？」という問いから出発して「人々の幸福と不幸」について調べ、考える中で、皮相的な考えから、しだいに社会経済に渡る広い視野でみつめることができるようになった。物事を単純ではなく重層的な問題として捉え、悲劇的な側面を多く感じながらも、尚、希望を求める方向性を持つことができたように思われる。</p> <p>造形面では、テーマに即したモチーフ選びや、骨から描くことで動きのある動物や人物像を描く技、また複雑な要素をまとめていくことを実践的に学ぶことができた。互いに異なる意見をすりあわせて共通理解を持ち、一つにまとめることを学んだ。</p>	<p>全体で54名が関わるのは、意見集約段階はよいが、実際に描く場面ではとても難しさがある。</p> <p>全体像を見取り構築するのはかなりの実力を要する。他者への遠慮から、部分、部分がばらばらになってしまうこともある。こうしたことを克服していくには相応の時間が必要で、テーマ設定から始まる限られた時間の中では、その割り振りに苦慮するところである。</p>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>カナダ側から与えられた、未来への希望は何か？という問いに大多数が「幸福になること」と言ったことで、幸福って何なのだ？という問いに発展した。始めは「お金が欲しい」とか「好きな物を食べたい」とか目先のことしか浮かばなかった多くの生徒達だが、「幸福とはきれいな水が飲めることだ」「家族が離ればなれにならずに暮らせることだ」という切実な意識を持つ生徒たちの意見に刺激を受ける。</p> <p>新聞やネット上で世界の幸福と不幸について調べていくうちに、自分達の生活が多くの他者、それもより不幸な他者に支えられている面があることに気づくようになった。互いの情報を交換させ、読み合ううちに次第に近視眼的な卑小な言動は影を潜める。個人的な希望が社会性を帯びようになり、語り口が雄弁になる。日常では見えない、人として社会に対面する友人の姿を発見し、触発された生徒も少なからずいたようだ。</p>	<p>気軽に承知した「私たちの未来への希望」というテーマ。しかしすぐに、とんでもなく難しいテーマだと気づいた。我が校の高校1年生はまだ幼く、社会的な意識が乏しい者が多い。始めの問いには近視眼的で即物的な答えしか返ってこず、どうしたらこの問いを深められるか考えた。「幸福」を考えるには対比としての不幸と一緒に考えさせるべきだ。事実を知ることが必要だ。少数だが地に足のついた発想をする生徒達もいた。夏休みの調べ学習で世界という広い視野と自分の家庭という身近な視野で幸福と不幸の有り様を見つめさせ、互いの成果を全て見られるようにワークシートをつかって交流させた。生徒同士の影響関係は大きい。互いから学ぶ流れが出てきたようだ。テーマが大きくモチーフも多様であることからまとめるのに苦労したが、苦闘の痕跡がちりばめられた作品もそれなりの意味があるだろうという所に落ち着いた。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
導入	1学期	<p>カナダと交流し、壁画を描くことを伝え、テーマについて交流して絵画かすると同時に、そこに日本の伝統文化を伝えることを含むことを知らせて学習を進める。日本の伝統絵画上特徴的な濃淡表現を生き物をモチーフにして実習する(土から絵の具をつかって生き物を描く)。また、日本独自の植物表現を源氏物語絵巻から学び意識させる。</p> <p>テーマ「私たちの未来への希望」について意識調査をする。</p>	<p>カナダと交流するというにとりたてて反応は起きなかったが、それぞれに関心をもったようだ。</p> <p>土から絵の具をつくる作業は楽しんででき、活きている蟹の動きを巧みに捉えた傑作が多数生まれた。</p> <p>粒子の粗い絵の具の特徴が美しい濃淡表現を生んだ。</p> <p>「未来への希望」に具体的なイメージを描ける生徒は極めて少数であった。</p>	美術

<p style="text-align: center;">テーマ 学習</p>	<p>2学期</p> <p>夏休み</p> <p>2学期</p>	<p>「希望」の大多数が「幸福になること」であったので、幸福とは何かを追及することに焦点を当て、深めていけるような状況をつくろうと考えた。対比的な学びが効果を上げることから、まず身近な「子どもの幸福と子どもの不幸」について考えさせ意見交換させた。</p> <p>生徒達の経験は限られていて、視野も狭いので、視点を設けて調べ学習をすることで視野を広げさせることにした。夏の課題として「日本の伝統美術について」「世界の大人の幸福と不幸」「世界の子どもの幸福と不幸」を新聞、ネット、インタビューで調べて新聞形式で提出させ、「自分の保護者が今までで一番嬉しかったことと大変だったこと」をインタビューさせ、「自分の将来の生き方について」と共にレポートさせた。</p> <p>2 学期に入り、夏の課題を全員分データ化し表にして印刷。互いの成果を交換する。</p> <p>調べ学習の成果を分類させる</p> <p>個人的な希望と社会に対する希望の二つの視点から書かせる</p>	<p>始めは「学校に行かなくてはならないのが子どもの不幸」とか「試験があるのが不幸」などといった極めて矮小化された発言があり、その中で(外国文化コースに限るが)きれいな水が飲める、家族と一緒に住めるという当たり前のようと思われることが実は当たり前ではなく、幸福なことなのだと言う発言があり、生徒達の意識の流れが少し変わったようだ。</p> <p>新聞、ネットから拾い上げる記事には生徒の意識が端的に反映していて、ほとんどが日本人の普通科クラスは表面的な取り上げ方をする生徒が多く、外国籍や外国にルーツを持つ生徒が多い外国文化コースクラスでは、社会的意識が強く反映される記事が多く見られた。</p> <p>両クラスを通じて共感を得たのは貧しくとも家族が寄添って幸せに暮らす老人の記事であった。「普通の暮らし」について考え始める。</p> <p>分類作業を通じて、「人間の欲が不幸の大きな要因になっている」という鋭い視点が生まれる。</p> <p>個人的な希望として社会性をもった内容が増えてくる</p>	<p style="text-align: center;">美術</p>
<p style="text-align: center;">構図 決定</p>	<p>2学期</p>	<p>「私の、世界の幸福と不幸」をテーマに今まで出てきたキーワードを視覚化してみる。スケッチだけでは難しいので、ネットなどから画像を集めさせ、更に選択し精選させる。</p> <p>人間の動きを表現させるため、骨格から描く方法を習得させる。</p> <p>実行委員の話し合いで、構成を考えさせる。</p> <p>実行委員を集めて全員から集めたスケッチを精選させ、コラージュの手法で構図としてまとめさせる。</p>	<p>絵にすると途端に幼稚化し既成概念に逆戻りする生徒が多い。イメージを絵画化する難しさに耐えられず、画像は様々集まったが参考にする気概もなく、描ける物を描くという次元に陥ってしまう。</p> <p>骨格から描く人物画は成果が上がった。</p> <p>幸福を追求したいが現実にはむしろ不幸の方が多いことに気づいた生徒達は、不幸な現実から幸福な未来を目指す方向性を持った構図を決定。現実にはモノクロームで未来は色彩豊かかという対比効果を狙うことも決定する。</p> <p>個々に描いた物を集めて代表者が構成していくが、自分が描く物にしか関心がない生徒もいて、全体の視野をもって判断できる生徒は限られていた。</p>	<p style="text-align: center;">美術</p>

壁画制作	2学期 3学期	スケッチを具体化していく上で、更に写真集や絵画を参考資料として集めた。 キーワード毎に場所を決め、主な担当者を決める。 時折、進行途上で意見交換させ、密度を高める工夫をする。 主に授業外の活動で制作を進める。	授業外活動に集まる生徒は限られてくる。同時に献身的に集まる生徒も出てくる。 担当が決まると他人の絵に口出しし辛くなる。 相手が見えなかったり、知らない同志であると反って意見を言いやすい面がある。それをうまくつないでより良い方向を目指させる。	美術
鑑賞・振り返り	3学期・ 新年度	相手校から送られてきた完成した壁画の写真を見て感想を言い合う。 完成して送られてきた壁画を鑑賞し、プロジェクト全体を通じてまとめる。	完成した作品に大きな関心を寄せる。	美術

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	事前の基礎学習において、成果を上げていたこと。壁画の中で活用できたこと。
異文化の理解	B	2	相手校から頂いたクリスマスカードに関心を寄せた生徒もいるが、全体として相手国の情報を得たりする時間がとれなかった。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	調べ学習をもとに、互いに自分の意見を書く場面を多くつくり、書き方が成長していった面が見えた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	数多く情報収集し、発信した。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	3	3つの講座から集まって一つの壁画をつくっていくため、普段知り合えない人々の交流があり、認め合うことができた。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	それぞれが分担して責任を持つことと同時に、互いの影響関係にも気を配ることができた。
学習を追究する意欲	A	4	限られた生徒についてだが、壁画を完成させることにこだわる姿勢が見えた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	授業の中で計画的に訓練を重ねた成果が見えた。
作品を鑑賞する力	A	3	制作する中でも鑑賞の力は使っているが、全員が鑑賞する時間はまだ持っていない。